へ 13
3838
14

門 13
號 3838
卷 14

戊辰夏

白縫譚

五十八篇

上集

種彦作

芳幾画

菊壽

文庫

白怒飛物語
五拾七編上
柳亭種彦作
朝霞樓芳幾画
戊辰春
廣岡文庫
五十七編下

物
か
た
り
五十八編上
二十八

志ぬもの　五十八海

下集

水ハ二ツ合ツテ冰ル則ハ平ニシテ押ハ堅ク波ハ則チ逆怒當ルハ痛ク忠孝ハ二道太平の世の忠臣と富貴の家乃孝子とハ克盡せども平ニシテ最難ク君ハ代りて戦死ス不倶戴天の仇を復セハ磯うつ波の奇態を見せ胸を冷ヤして痛むべし此白縫の原傳ハ夜須河某の幼少兄弟父讐鷲掴權太と云異老漢を討餘譚あり板元これを書加ヘていとゞ好あれば志邦が酒筒感得の話ハ十七膜稿成られど濃津島の波高きハ似ぞ其趣ハ平ニシテ或ハ次川の水ハ堰きて哭ぶ悲しく件少ゝねび久しく出さぬ愁歎場を且前ハて碧巖和尚の落草の挈子と云養老孝子ハ六十編のメトハ延して竜川が娘婦の因とせんさて安川を岡村ハ托せるハ巻中の人物のゝゞ立消ぬ世とさりけの

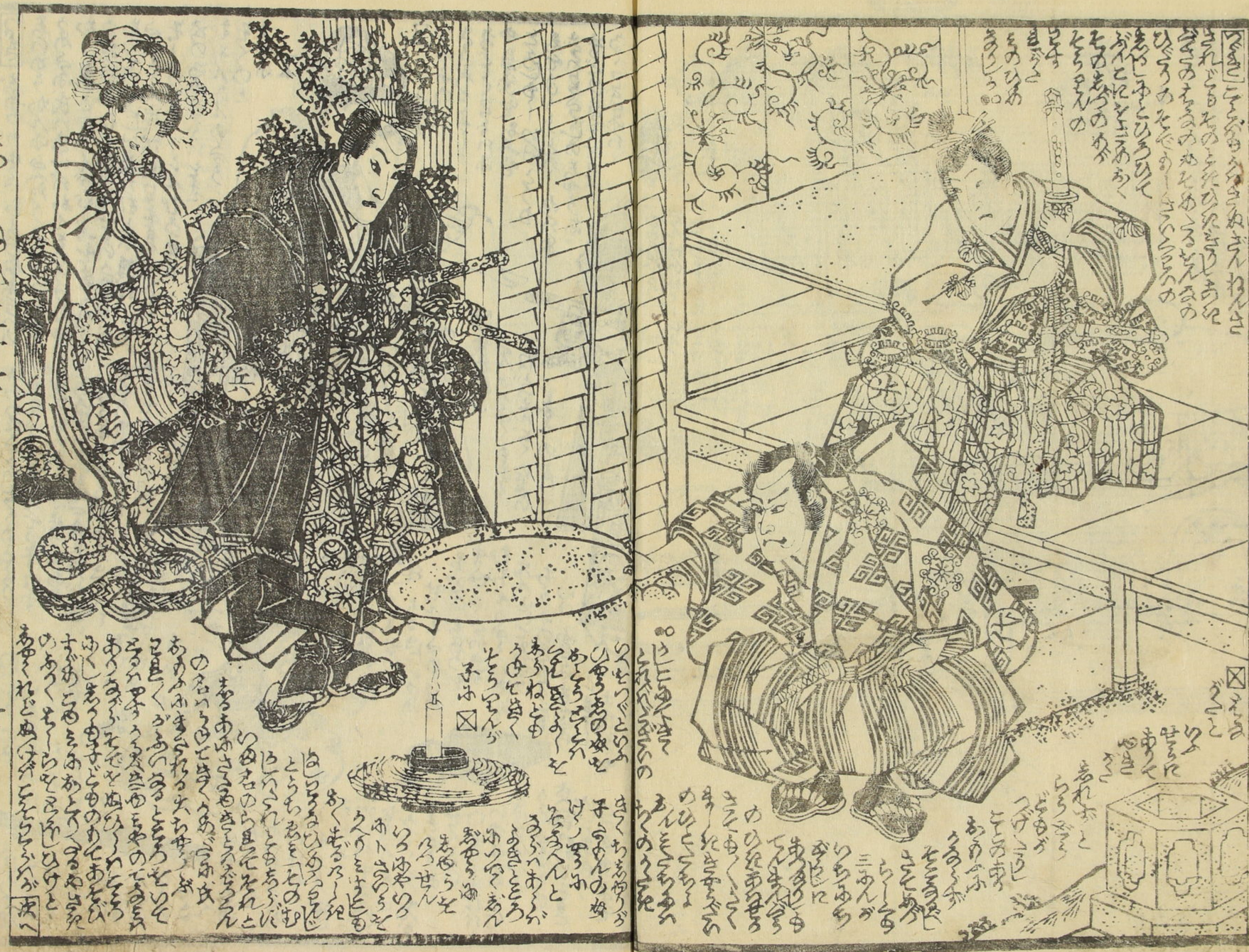
慶應四辰季春

柳亭種彦記

形管嬢
本領安堵

鰐塚紆太夫

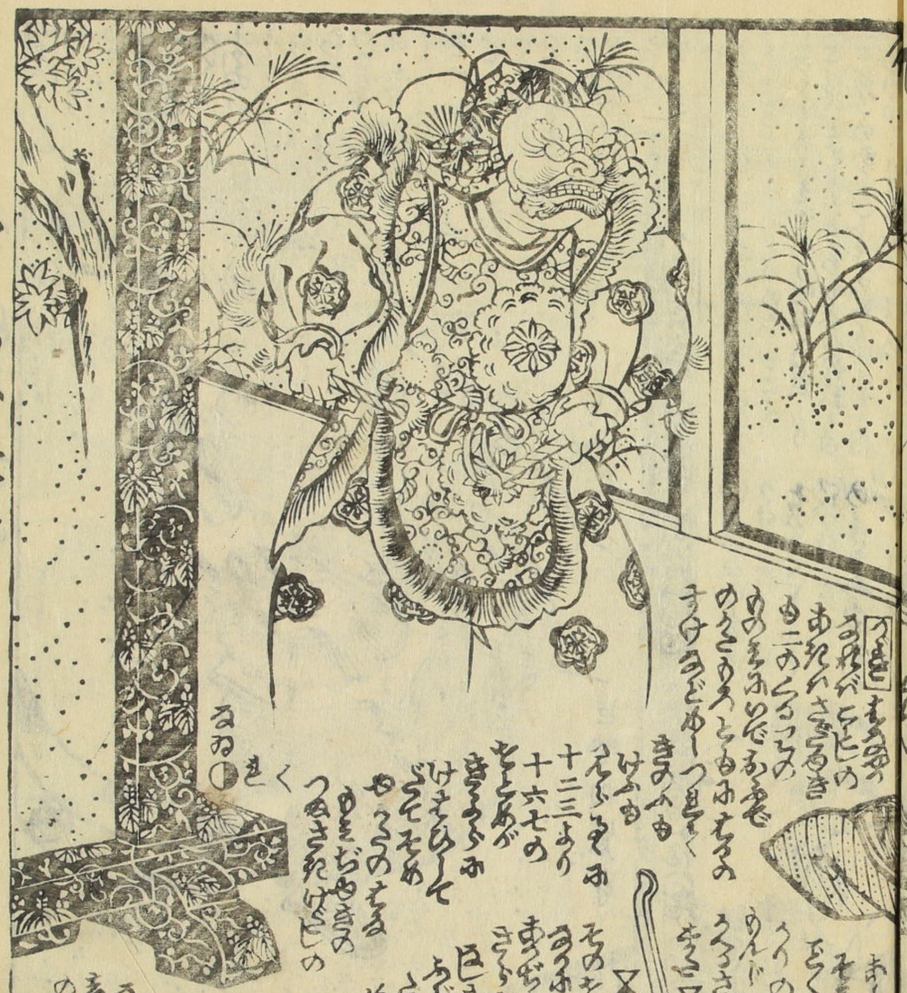
若
末
○ツト画組
本文と
うらうら
顧
遺集
拾
後
兵
次へ

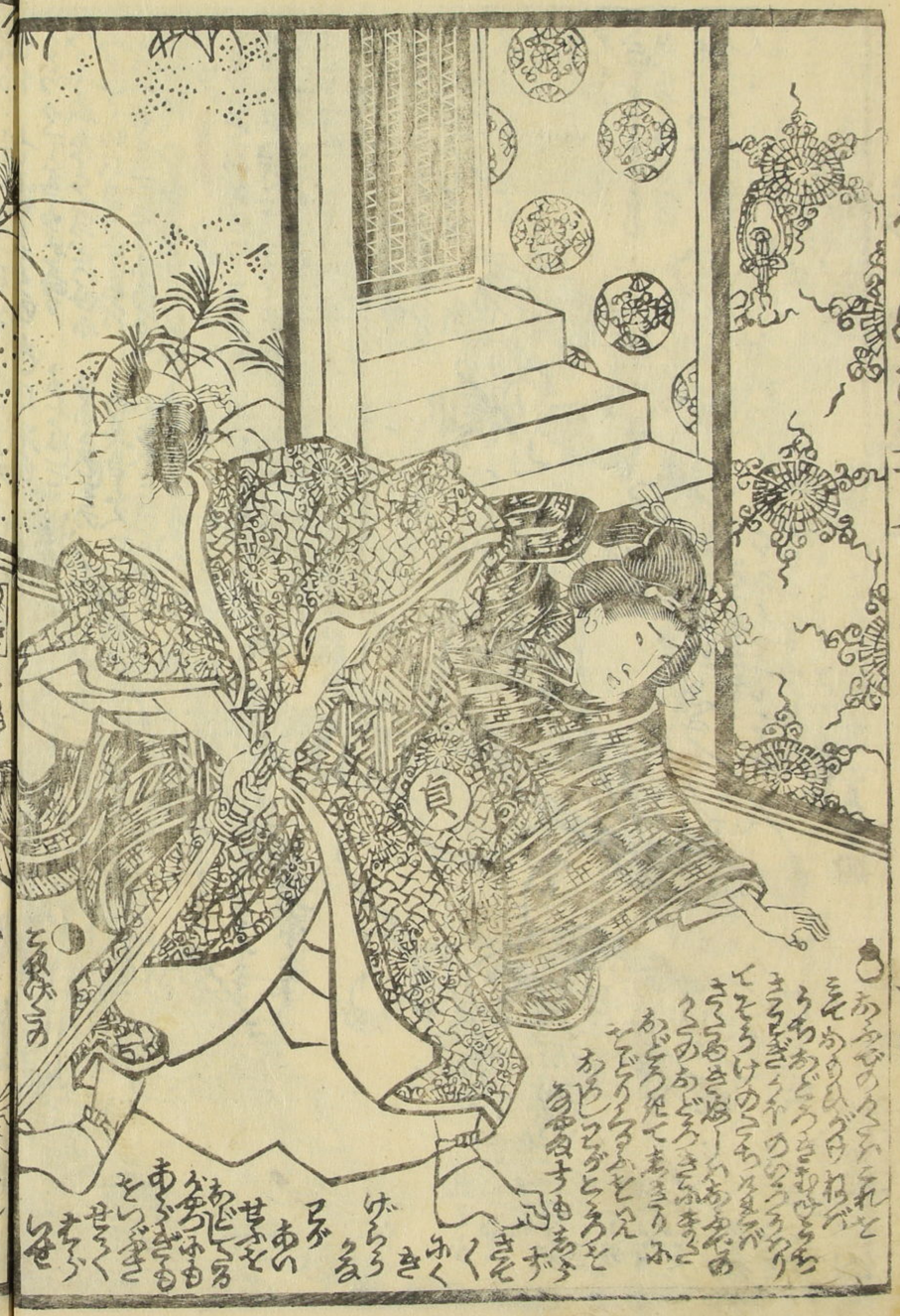


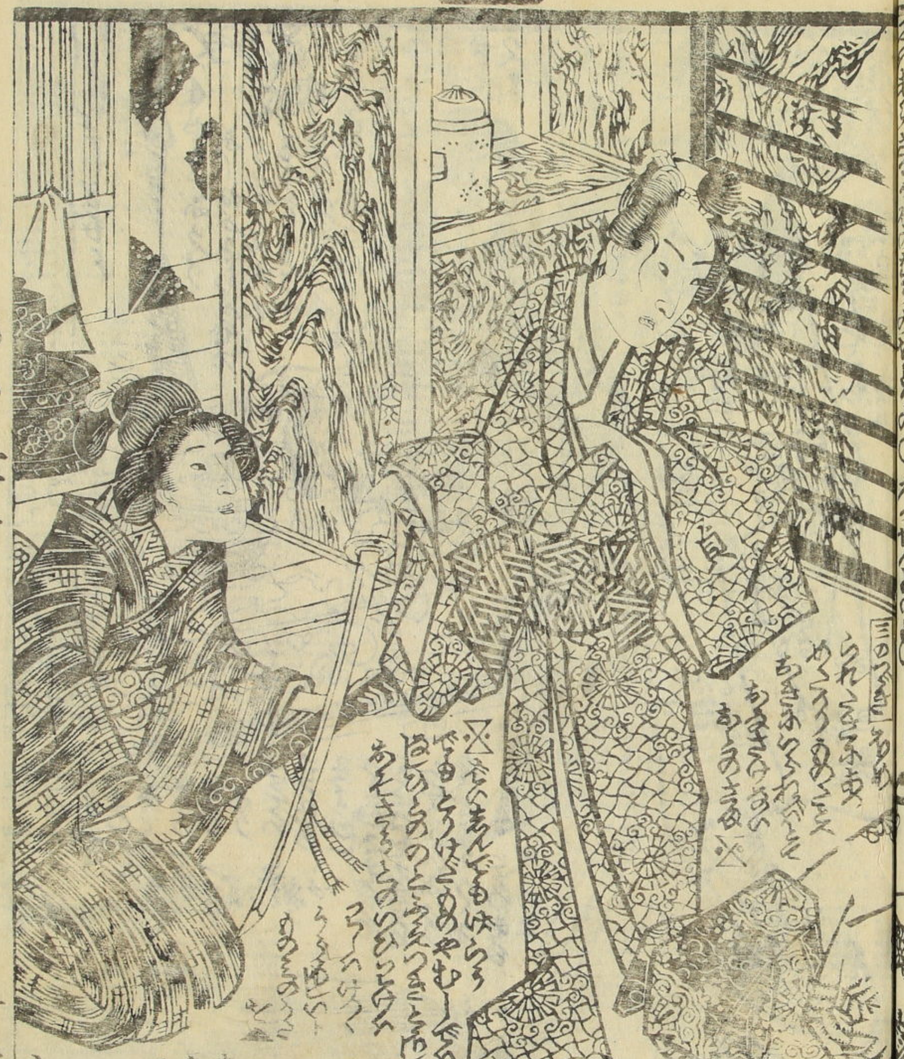
七
竜

柳亭種彦作
恵齋芳幾画

つぎ







春
刑

雨

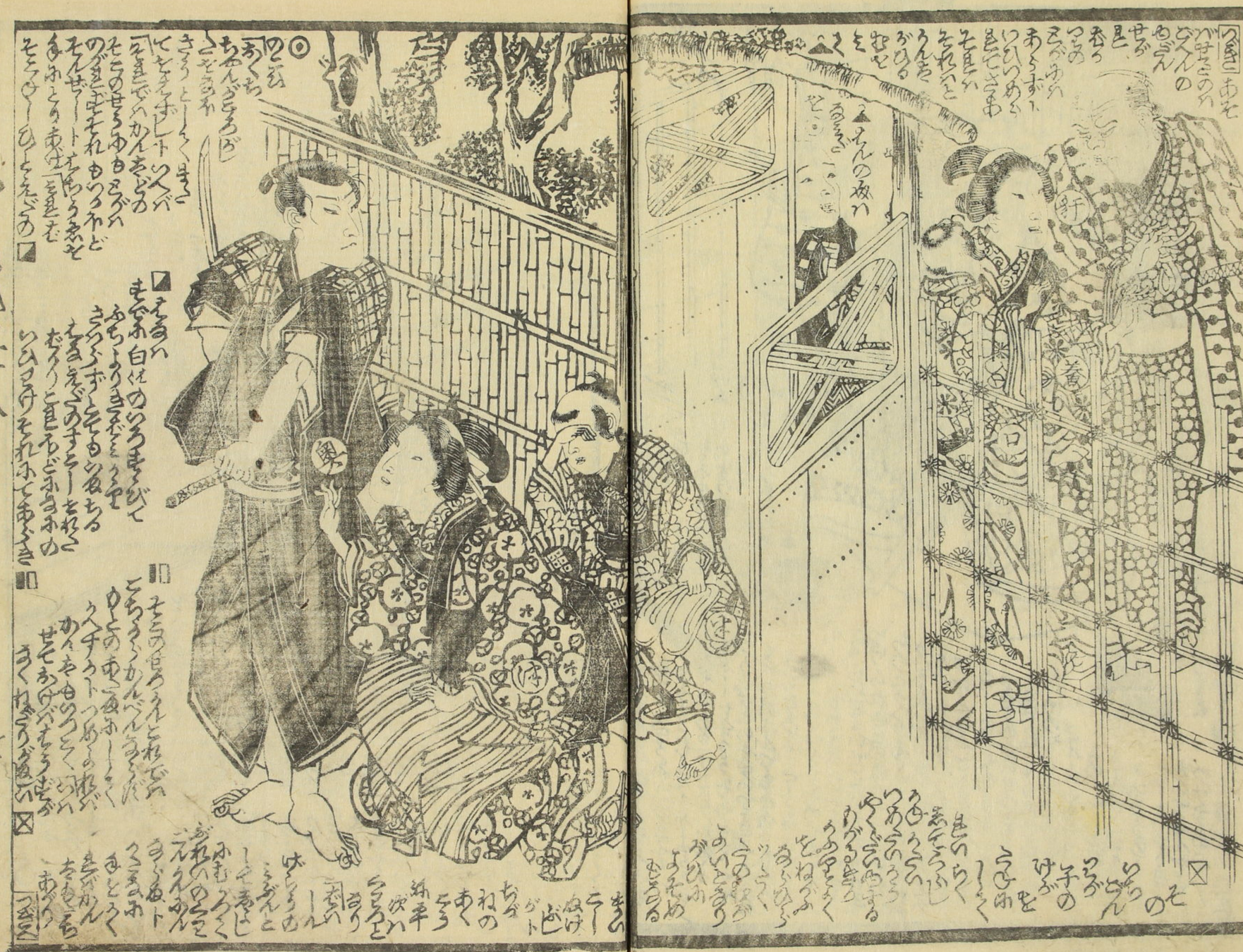
極楽王で娯ましむ。女ぞ元てい始らず。仙を孝びて長寿をなす。霞が酒でい酔れしせど。紀川政元い左道を修もとそ。男色めて欲を忍ー由。若菜姫の奇術をとり。男の嬉び破まてせん。然るく自己ふ對偶ーき夫なのを色そ。寡婦めそくるもそ宜ろれど大友氏の。血脉皆ぐふ断ぎん。大功立てい孝不成と作者の腹めて佳婚ぞと。択むふつけてい彼術を。ほろせぜば佛の後光。撒ーこと様で信ん減ん。桃を持ぬ西王母ハ。姐妃ゆく揚貫妃ゆふ。吉祥天ゆ分るゆと。今ぞ思案の最中故一寸の間姫を休せそ。此一套い相中の役者ゆ役を付らるるんど。土用芝居ふのくばらそ。此草稿ふ筆を採ーふ。寒中ぎん舞頃其ら小鴨ふのくばらそ。相鴨の間ゆ狂言をるくふこと。はいこの彩吏と。更ら世界に愕きたまふ。

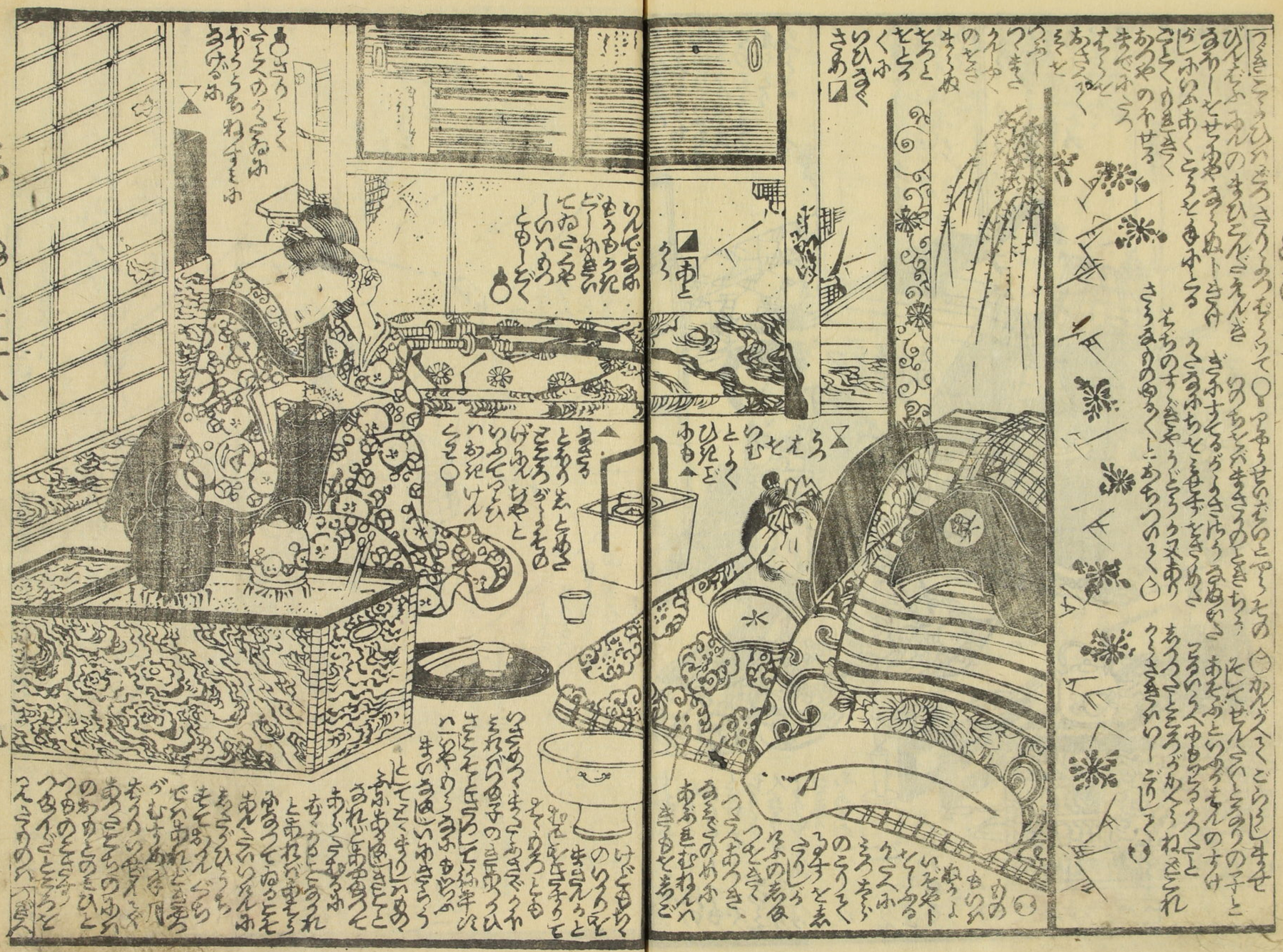
慶應三新刊

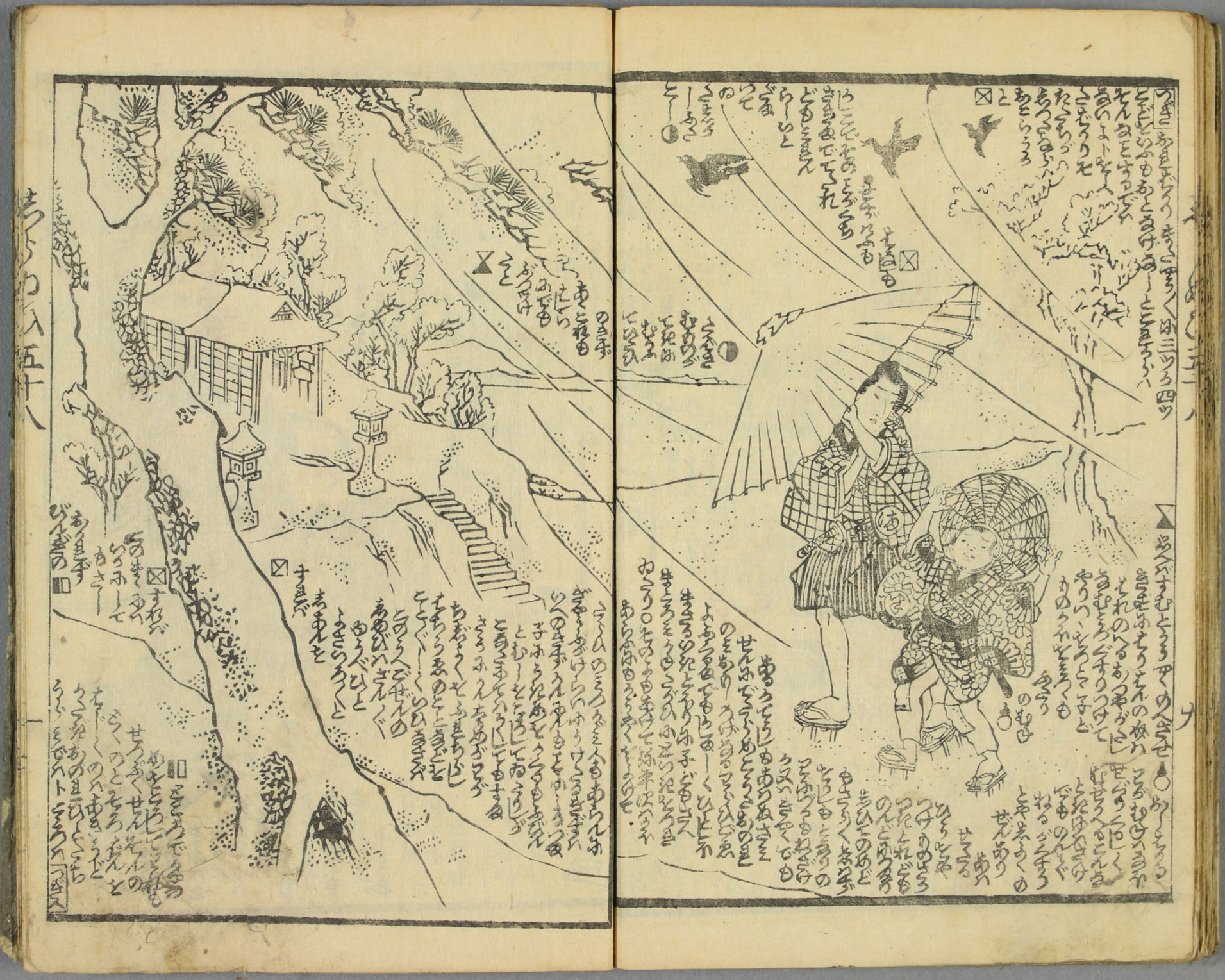
柳亭種彦記

九聯兒
稚菜姫

奥



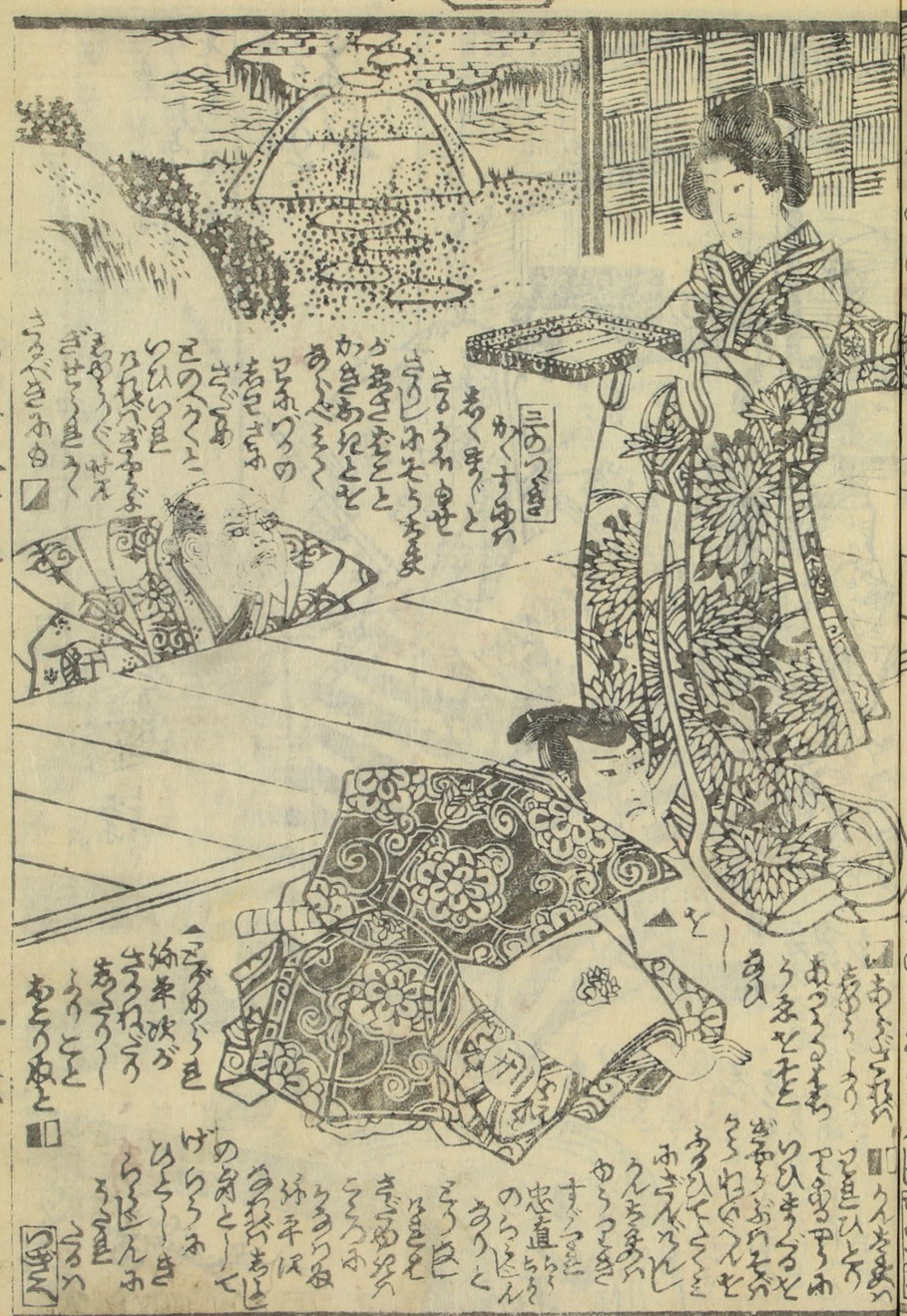




種彦作
芳幾畫

奥
錢

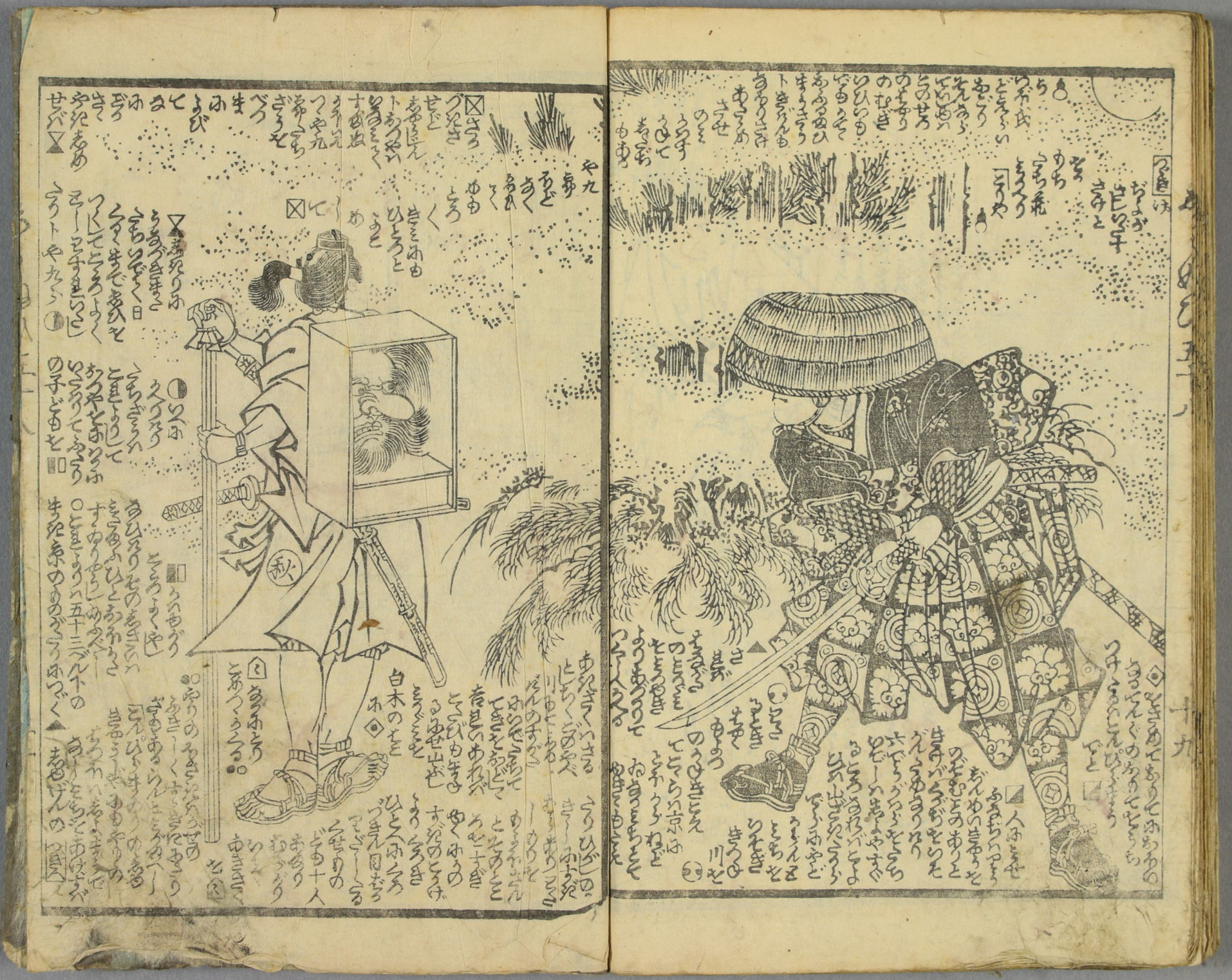
春
自

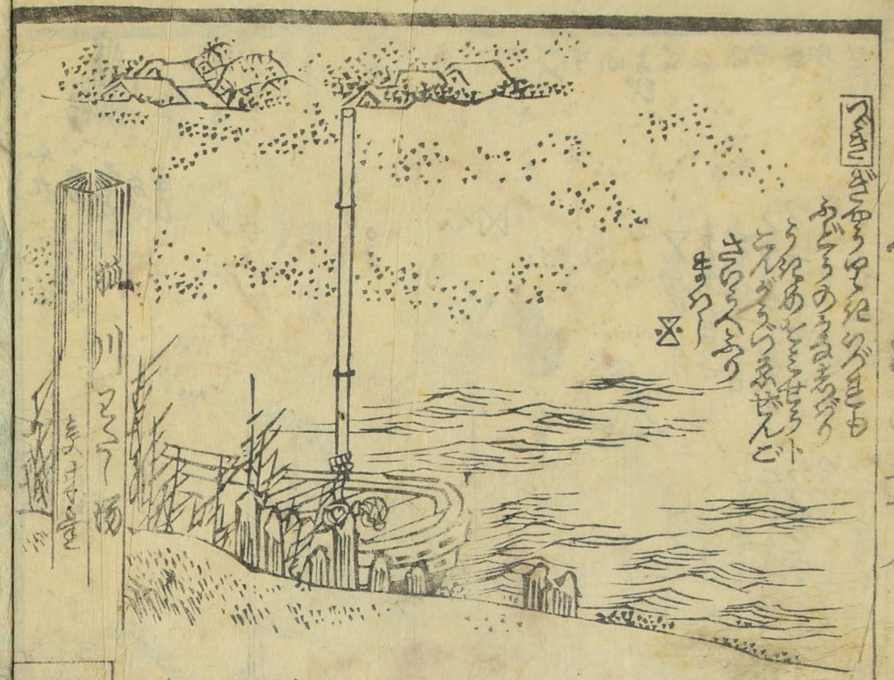

秋

五十八
十五
十六
十七

太
矢

秋


秋



浪輝黄金魏

三編讀切

名誉の孝女八村豆腐市

林木金輔

霞楼茅幾里

瀬川如皐 山々亭有人 恵齋芳幾 合

松梅素玄魚 湖龍交来 假名垣魯文 竹河 其水 作

一対四季の縁に因て戯作劇場の一様に竹林あらぬ七軒人が一回五葉を持きりの合作全備の三編冊

初編 初丁より五十丁迄 其水作同 有人作同 交来作

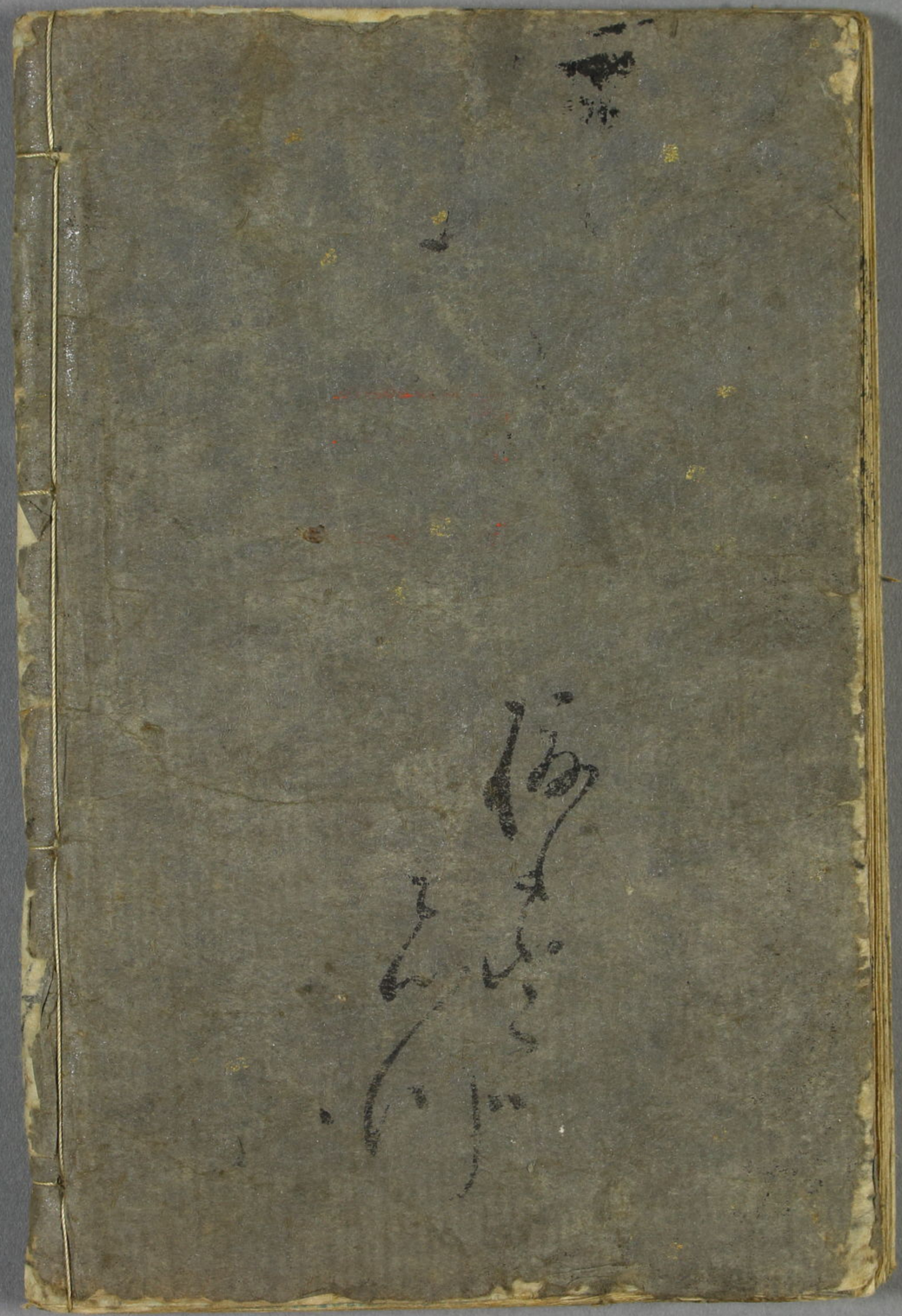
同 十六丁より尾迄 如皐作

二編 初丁より五十丁迄 魯文作同 如皐同 魯文同 其水作

三編 初丁より五十丁迄 魯文作同 如皐同 魯文同 其水作

定め豆腐華力をたくし浮當藏板のあらぬ人同様御高評

江戸深川佐賀町

廣岡

地紙草紙問屋